

清酒の製造状況等について

平成 29 酒造年度分

目 次

1. 調査の概要	1
2. 調査結果の総括	2
3. 清酒の製造場数等	3
4. 清酒の製造数量	7
5. 原料米の使用数量等	10
6. 原料用アルコールの使用数量	13
＜参考 1＞平成 29 酒造年度清酒製造状況一覧	
＜参考 2＞清酒製造数量の推移	
＜参考 3＞玄米使用数量の推移	
＜参考 4＞特定名称酒の課税移出数量等の推移	
＜参考 5＞清酒のタイプ別課税移出数量の推移	

国税庁 課税部 鑑定企画官

1 調査の概要

1-1 調査目的

この調査は、個々の清酒製造業者の清酒製造状況を分析し、各国税局鑑定官室の諸施策に活用することにより清酒の品質の確保に資するとともに、日本国内における清酒の製造及び製造に関連する事項の実態を把握した上で、国税庁の行う各種の施策を通じて、清酒製造業の発達改善に資することを目的としています。

1-2 調査対象期間

調査対象期間は、平成 29 酒造年度（平成 29 年 7 月 1 日～平成 30 年 6 月 30 日）としています。

1-3 調査対象者

調査対象者は、清酒の製造免許を有する酒類製造者とし、調査表を清酒製造場又は蔵置場ごとに提出いただいています。

2 調査結果の総括

平成 29 酒造年度においては、当該調査対象期間に清酒を製造した場数、清酒全体の製造数量ともに前年度と比較して微減しています。

一方で、特定名称清酒の製造数量は微増しており、清酒製造数量全体に占める割合は上昇傾向にあります。特に、純米酒、純米吟醸酒に着目すると、それぞれ平成 25 酒造年度比で純米酒では約 20%増、純米吟醸酒では約 50%増と、製造数量が近年大幅に増加しています。

原料米の使用数量はほぼ横ばいです。平均精米歩合もほぼ横ばいですが、純米吟醸酒については低下しており、より精白されている傾向にあります。

3 清酒の製造場数等

3-1 概要

清酒製造場数は全体として減少傾向にあります。

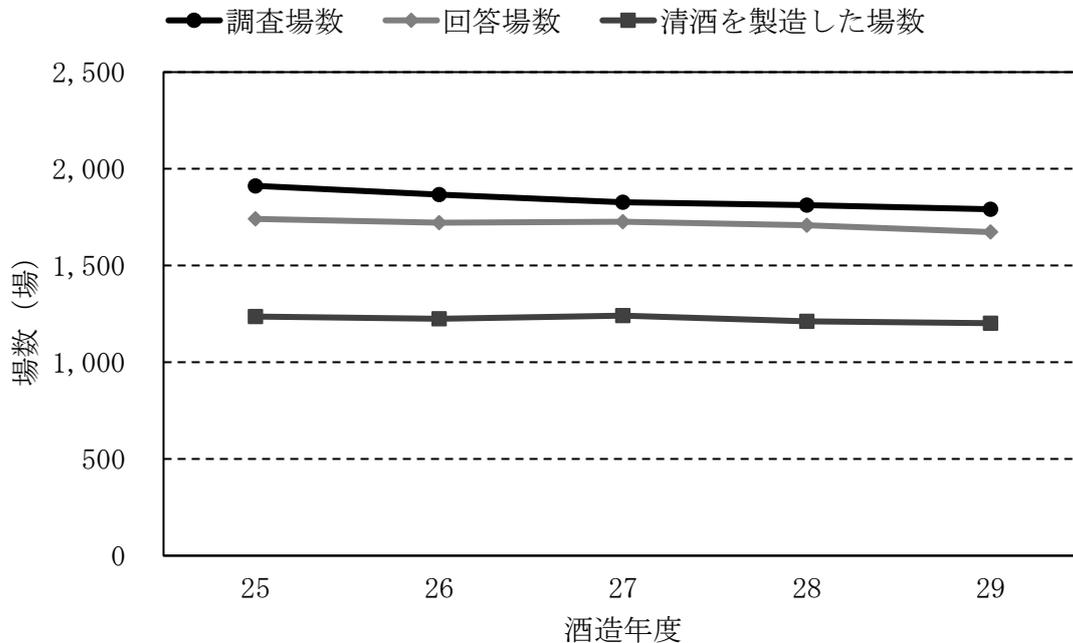
3-2 解説

調査場数(蔵置場を含む)1,791場のうち、回答場数は1,673場(回収率93.4%)であり、そのうち平成29酒造年度において清酒を製造した場数は1,202場で、前年度から10場減少しています。

製造方法別の製造場数は、特定名称清酒においては、純米酒1,023場(前年度1,036場)、純米吟醸酒1,094場(同1,109場)、吟醸酒867場(同882場)、本醸造酒787場(同803場)であり、特定名称清酒以外の清酒(以降、「一般酒」と表記します。)は839場(同860場)となっています。

全調査場数等の推移は図3-1、表3-1、製造方法別調査場数の推移は図3-2、表3-2のとおりです。

図3-1 全調査場数等の推移



(参考) 平成 25 酒造年度を基点とした場合の場数の比率

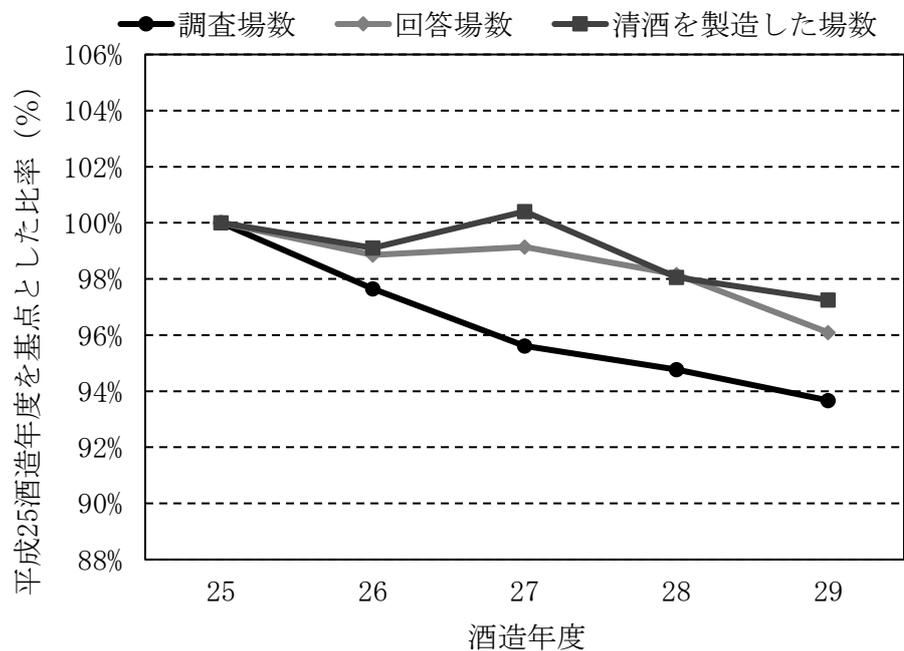
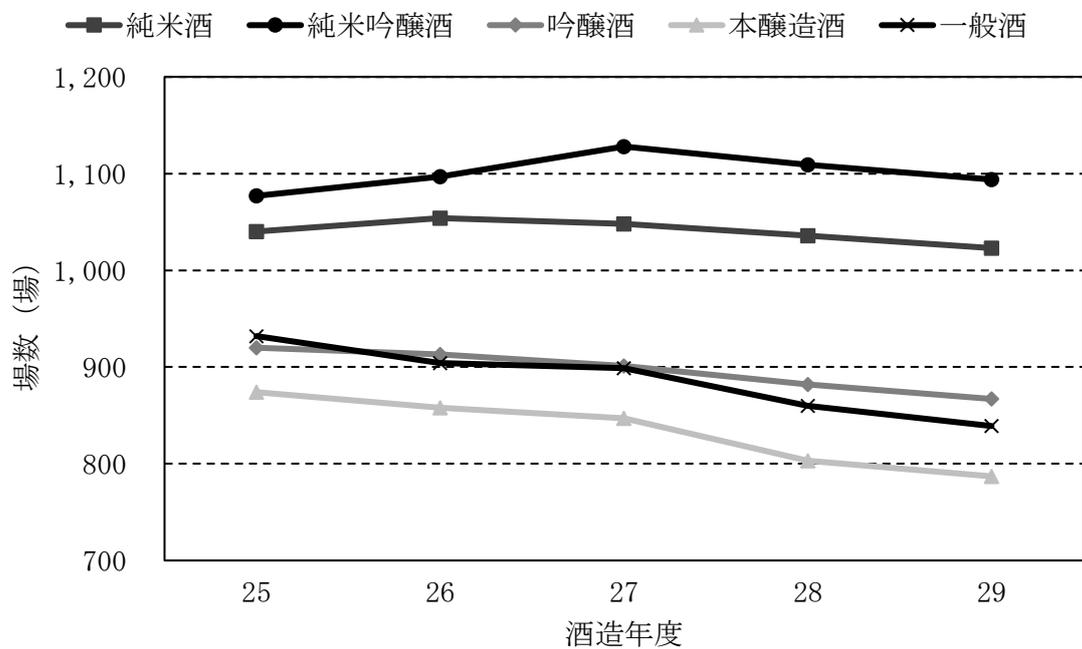


図 3-2 製造方法別調査場数の推移



(参考) 平成 25 酒造年度を基点とした場合の場数の比率

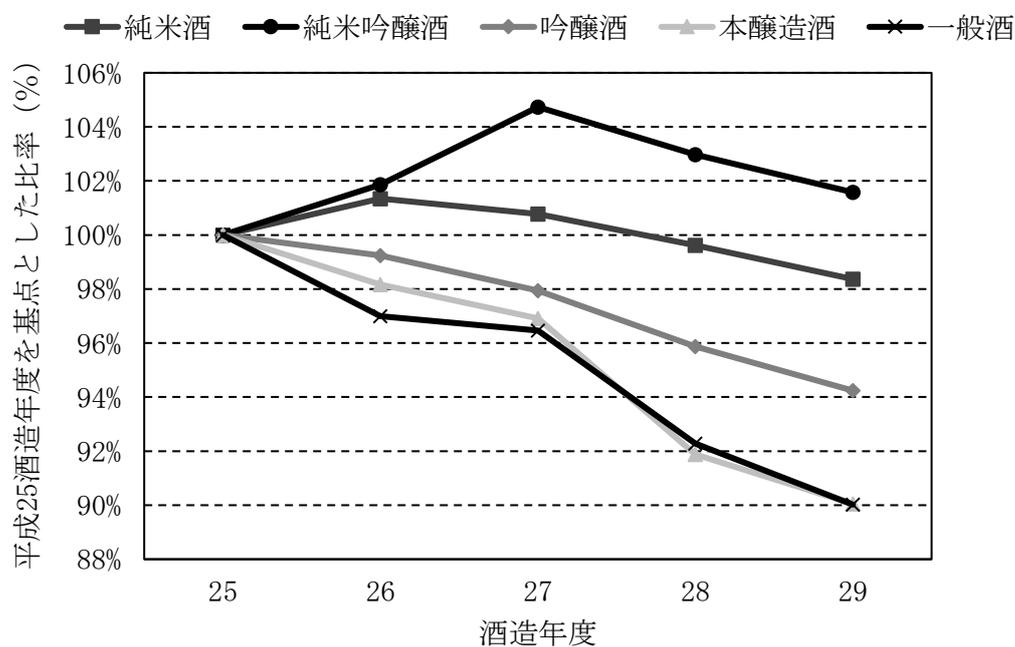


表 3 - 1 全調査場数等の推移

区分 \ 酒造年度	25	26	27	28	29
調査場数	場 1,912	場 1,867	場 1,828	場 1,812	場 1,791
回答場数	1,741	1,721	1,726	1,709	1,673
(内) 清酒を製造した場数	1,236	1,225	1,241	1,212	1,202

表 3 - 2 製造方法別調査場数の推移

酒造 年度 区分	25	26	27	28	29
純米酒	場 1,040	場 1,054	場 1,048	場 1,036	場 1,023
純米吟醸酒	1,077	1,097	1,128	1,109	1,094
吟醸酒	920	913	901	882	867
本醸造酒	874	858	847	803	787
一般酒	932	904	899	860	839

4 清酒の製造数量

4-1 概要

清酒全体の製造数量は減少傾向にありますが、純米酒、純米吟醸酒の製造数量は近年大幅に増加しています。

4-2 解説

平成 29 酒造年度における清酒の製造数量（アルコール分 20 度換算数量）は、407,563k1(対前年度比 1.1%減)です。そのうち、特定名称清酒の製造数量は、170,643k1(対前年度比 1.4%増)となっています。

特定名称清酒の製造方法別の製造数量を前年度と比較すると、純米酒は対前年度比 3.5%増、純米吟醸酒は同 5.6%増なのに対し、吟醸酒は同 1.6%減、本醸造酒は同 5.2%減となっています。

純米酒、純米吟醸酒については、それぞれ平成 25 酒造年度比で純米酒では約 20%増、純米吟醸酒では約 50%増と、製造数量が近年大幅に増加しています。

製造方法別製造数量の推移は図 4-1、表 4、純米酒、純米吟醸酒の製造数量の推移は図 4-2 のとおりです。

図 4-1 製造方法別製造数量の推移

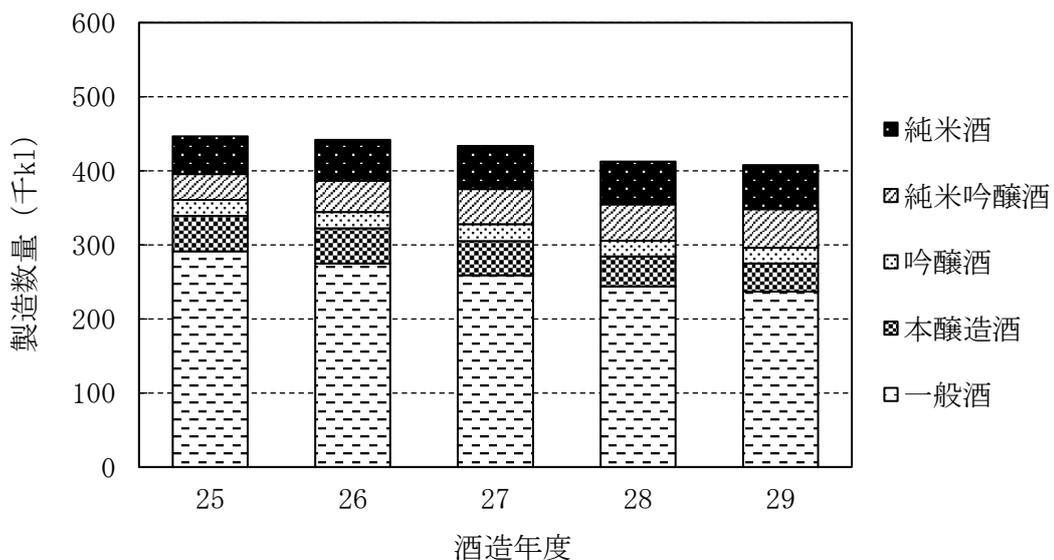


図4-2 純米酒、純米吟醸酒の製造数量の推移

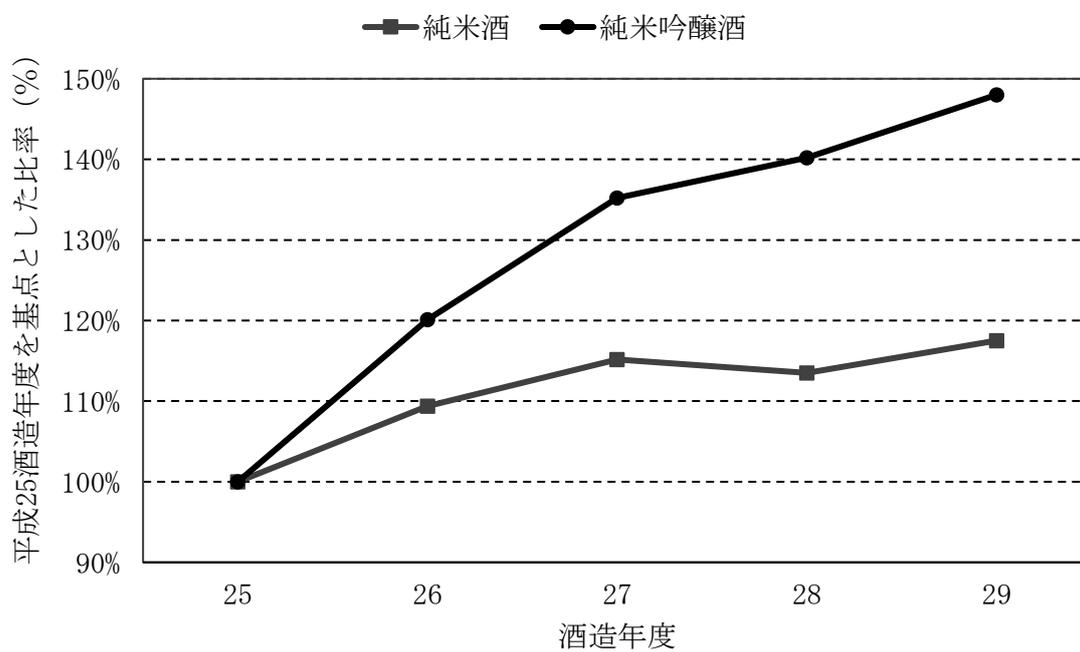


表4 製造方法別製造数量（アルコール分20度換算）の推移

区分	酒造年度	25	26	27	28	29	前年度比
純米酒		k1	k1	k1	k1	K1	%
		(11.3)	(12.5)	(13.4)	(13.9)	(14.6)	
		50,647	55,398	58,322	57,491	59,519	103.5
純米吟醸酒		(7.8)	(9.5)	(10.9)	(11.9)	(12.7)	
		35,020	42,063	47,348	49,103	51,831	105.6
吟醸酒		(4.9)	(5.0)	(5.3)	(5.2)	(5.2)	
		21,761	22,105	22,984	21,489	21,149	98.4
本醸造酒		(10.7)	(10.8)	(10.6)	(9.8)	(9.4)	
		47,718	47,558	45,947	40,232	38,144	94.8
(特定名称の清酒)		(34.8)	(37.8)	(40.3)	(40.8)	(41.9)	
小計		155,145	167,124	174,601	168,314	170,643	101.4
一般酒		(65.2)	(62.2)	(59.7)	(59.2)	(58.1)	
		291,290	274,721	259,120	243,955	236,920	97.1
合計		(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	
		446,435	441,845	433,721	412,270	407,563	98.9

(注) 1. () 書は、構成比(%)です。

2. 集計値の端数処理の関係で、各値の合計が合計値と異なる場合があります。

5 原料米の使用数量等

5-1 概要

原料米使用数量はほぼ横ばいです。平均精米歩合は純米吟醸酒で低下しており、より精白されている傾向にあります。その他はほぼ横ばいです。

5-2 解説

平成 29 酒造年度における清酒用原料米は、玄米としては 239,517t（対前年度比 0.6%減）、白米としては 155,007t（同 0.7%減）が使用されています。原料米使用数量はほぼ横ばいです。原料米使用数量の推移は図 5-1 及び表 5-1 のとおりです。

平均精米歩合は 63.5%（前年度 64.0%）で、純米吟醸酒で低下しており、より精白されている傾向にあります。その他はほぼ横ばいです。平均精米歩合の推移は図 5-2 及び表 5-2 のとおりです。

図 5-1 原料米使用数量の推移

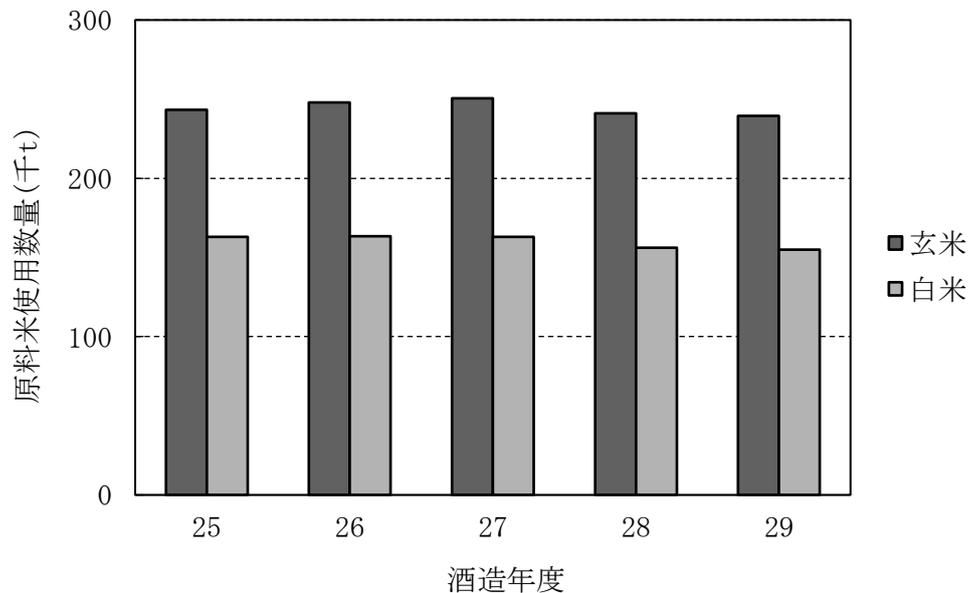
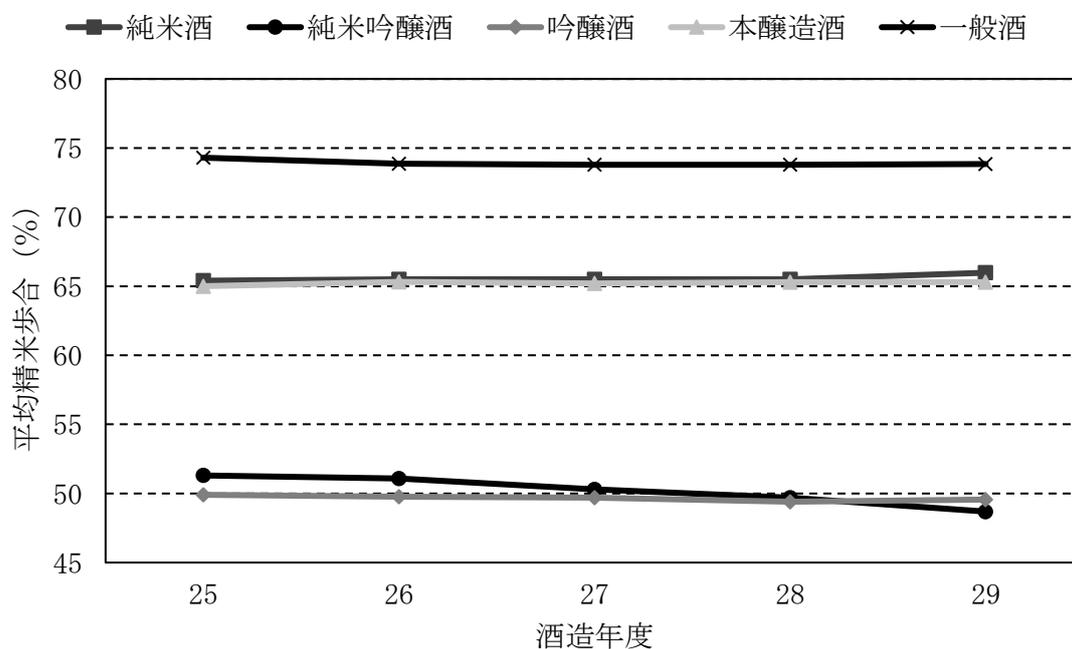


図5-2 製造方法別平均精米歩合の推移



(参考) 平成25酒造年度を基点とした場合の精米歩合の比率

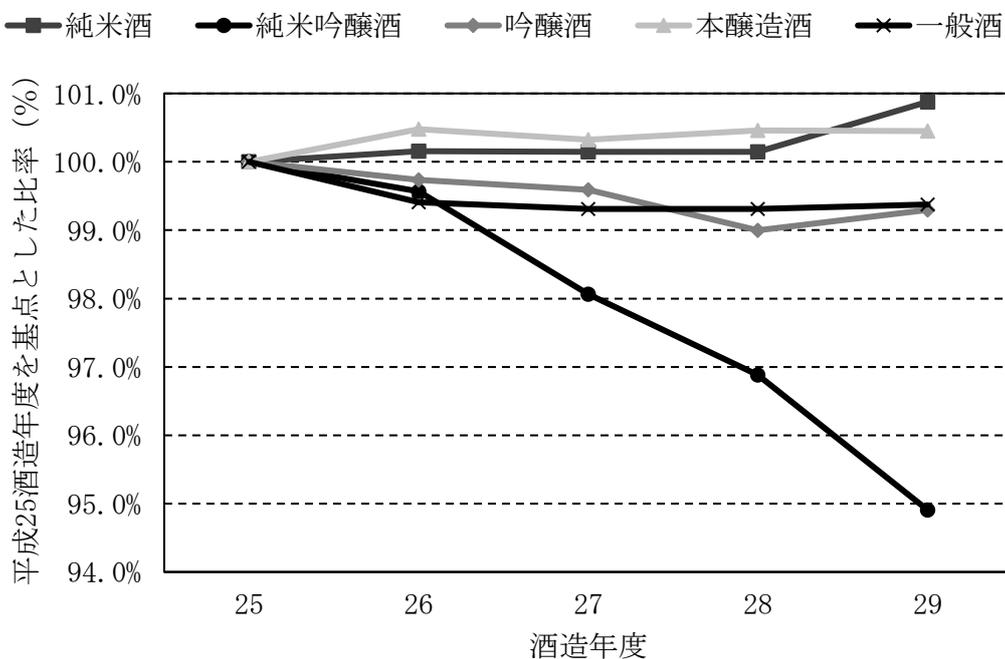


表 5 - 1 原料米使用数量の推移

区分 \ 酒造年度	25	26	27	28	29	前年度 比
	t	t	t	t	t	
玄 米	243,217	248,019	250,537	241,022	239,517	99.4
白 米	163,057	163,519	163,005	156,110	155,007	99.3

表 5 - 2 平均精米歩合の推移

区分 \ 酒造年度	25	26	27	28	29
	%	%	%	%	%
純 米 酒	65.4	65.5	65.5	65.5	66.0
純米吟醸酒	51.3	51.1	50.3	49.7	48.7
吟 醸 酒	49.9	49.8	49.7	49.4	49.5
本 醸 造 酒	65.0	65.3	65.2	65.3	65.3
一 般 酒	74.3	73.9	73.8	73.8	73.8
全 体	66.2	65.4	64.6	64.0	63.5

6 原料用アルコールの使用数量

6-1 概要

原料用アルコールの使用数量は減少傾向にあります。

6-2 解説

平成29酒造年度の清酒製造に使用された原料用アルコールの数量(アルコール分100度換算数量)は22,828kl(対前年度比2.6%減)で、白米1tあたりに換算すると147.31(同1.9%減)となり、使用数量は減少傾向にあります。原料用アルコールの使用数量の推移は図6及び表6のとおりです。

図6 原料用アルコール使用数量(アルコール分100度換算)の推移

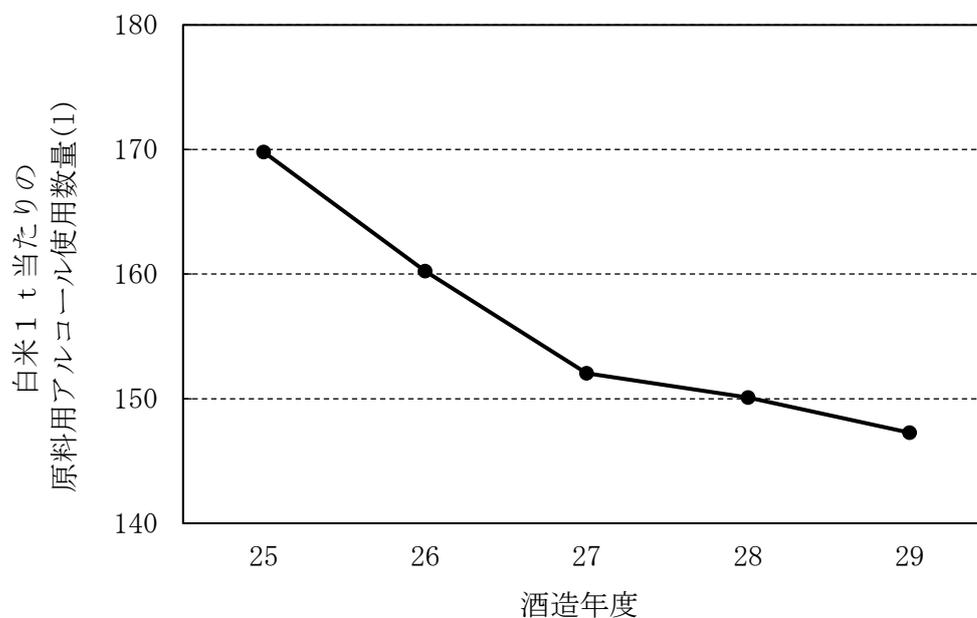


表6 原料用アルコール使用数量（アルコール分100度換算）の推移

区 分	酒造年度					前年度 比
	25	26	27	28	29	
使用数量	k1 27,690	k1 26,201	k1 24,783	k1 23,432	k1 22,828	% 97.4
白米1t当たり 使用数量	1 169.8	1 160.2	1 152.0	1 150.1	1 147.3	% 98.1

<参考1>

平成29酒造年度清酒製造状況一覽

区分	製造場数	製成清酒			
		実数		平均アルコール分	平均日本酒度
			純アル数量		
	場	kl	kl	度	度
純米酒	1,023	66,414	11,904	17.9	1.7
純米吟醸酒	1,094	60,576	10,366	17.1	0.8
吟醸酒	867	22,654	4,230	18.7	3.3
本醸造酒	787	38,723	7,629	19.7	3.3
一般酒	839	231,454	47,384	20.5	1.0
全体	1,202	419,822	81,513	19.4	1.4

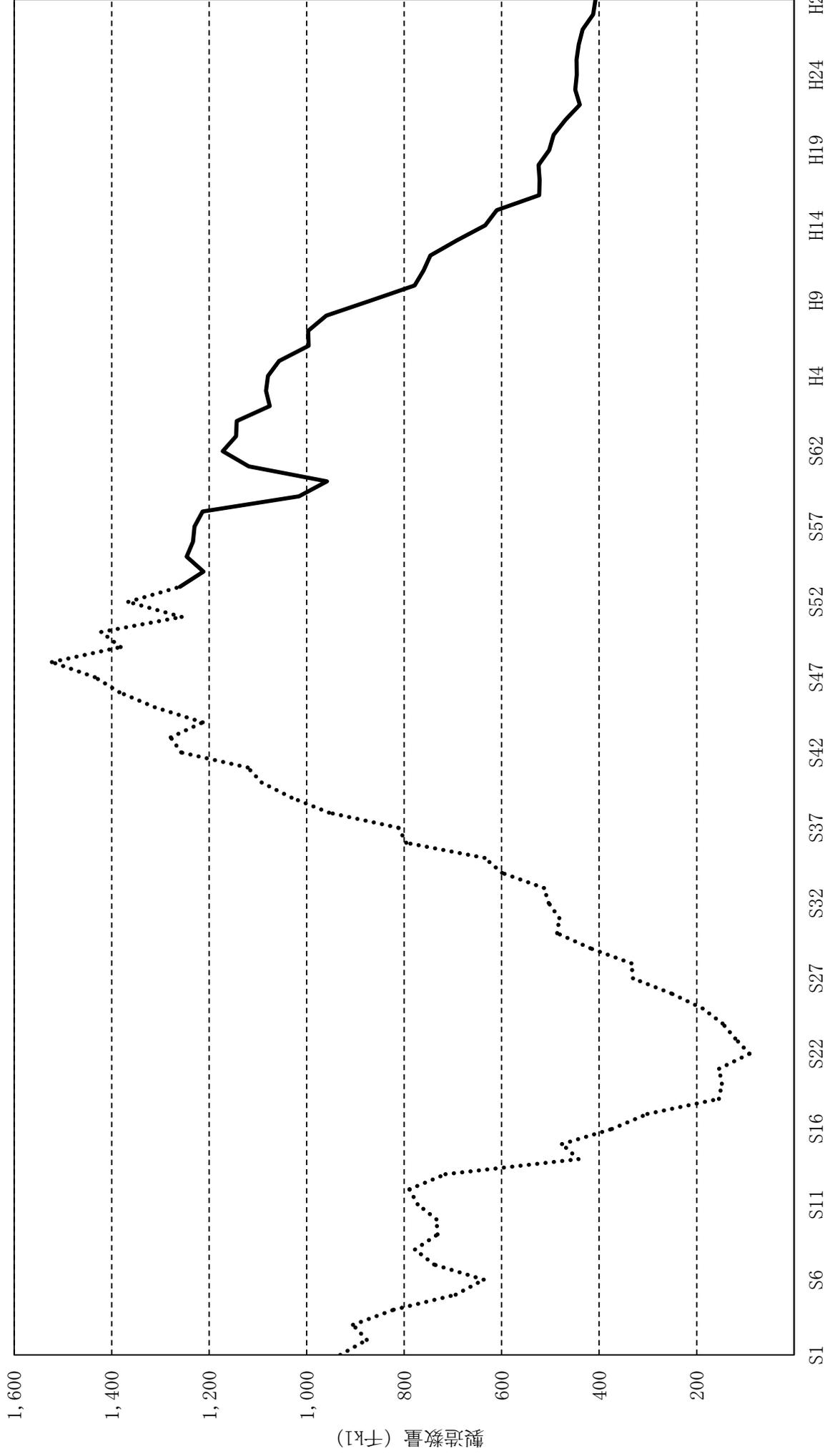
区分	製成かす	使用原料			
	実数	米		アルコール又は焼酎	
		玄米	白米	(純アル数量)	白米1tあたり
	t	t	t	kl	l
純米酒	8,717	46,907	30,946	—	—
純米吟醸酒	10,032	57,677	28,081	—	—
吟醸酒	3,291	18,644	9,238	932	100.8
本醸造酒	4,522	24,370	15,912	1,764	110.9
一般酒	14,794	91,919	70,830	20,132	284.2
全体	41,357	239,517	155,007	22,828	147.3

区分	使用原料					
	糖類		酸類			
	ぶどう糖	水あめ	乳酸	こはく酸	くえん酸	りんご酸
	kg	kg	kg	kg	kg	kg
純米酒	—	—	—	—	—	—
純米吟醸酒	—	—	—	—	—	—
吟醸酒	—	—	—	—	—	—
本醸造酒	—	—	—	—	—	—
一般酒	1,157,799	2,941,373	12,226	9,445	3,380	701
全体	1,157,799	2,941,373	12,226	9,445	3,380	701

区分	使用原料			各種歩合	
	清酒かす	清酒 実数	純アル数量	精米歩合	かす歩合
純米酒	—	—	—	66.0	28.2
純米吟醸酒	—	—	—	48.7	35.7
吟醸酒	—	—	—	49.5	35.6
本醸造酒	—	—	—	65.3	28.4
一般酒	11	32	5	73.8	20.9
全体	11	32	5	63.5	26.7

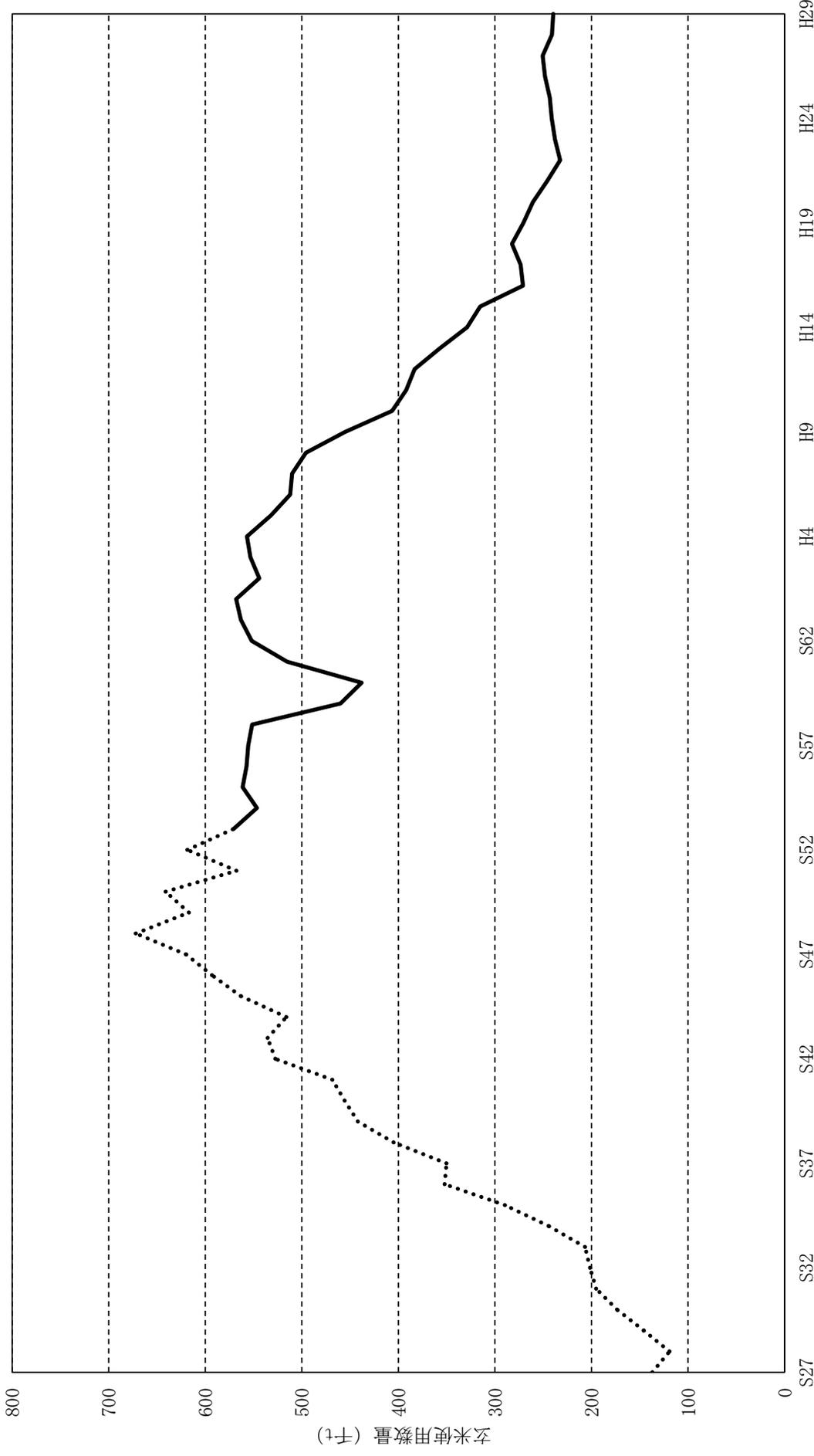
- (注) 1. 集計値の端数処理の関係で、各値の合計が合計値と異なる場合があります。
2. 純アル数量とは、製成清酒（実数）に含まれるアルコール分(100度換算)の数量をいいます。
3. 日本酒度とは清酒の比重を表す指標です。
4. 精米歩合とは、玄米からぬか、胚芽等の表層部を取り去った状態の米の、その玄米に対する重量の割合をいいます。

＜参考 2＞清酒製造数量の推移



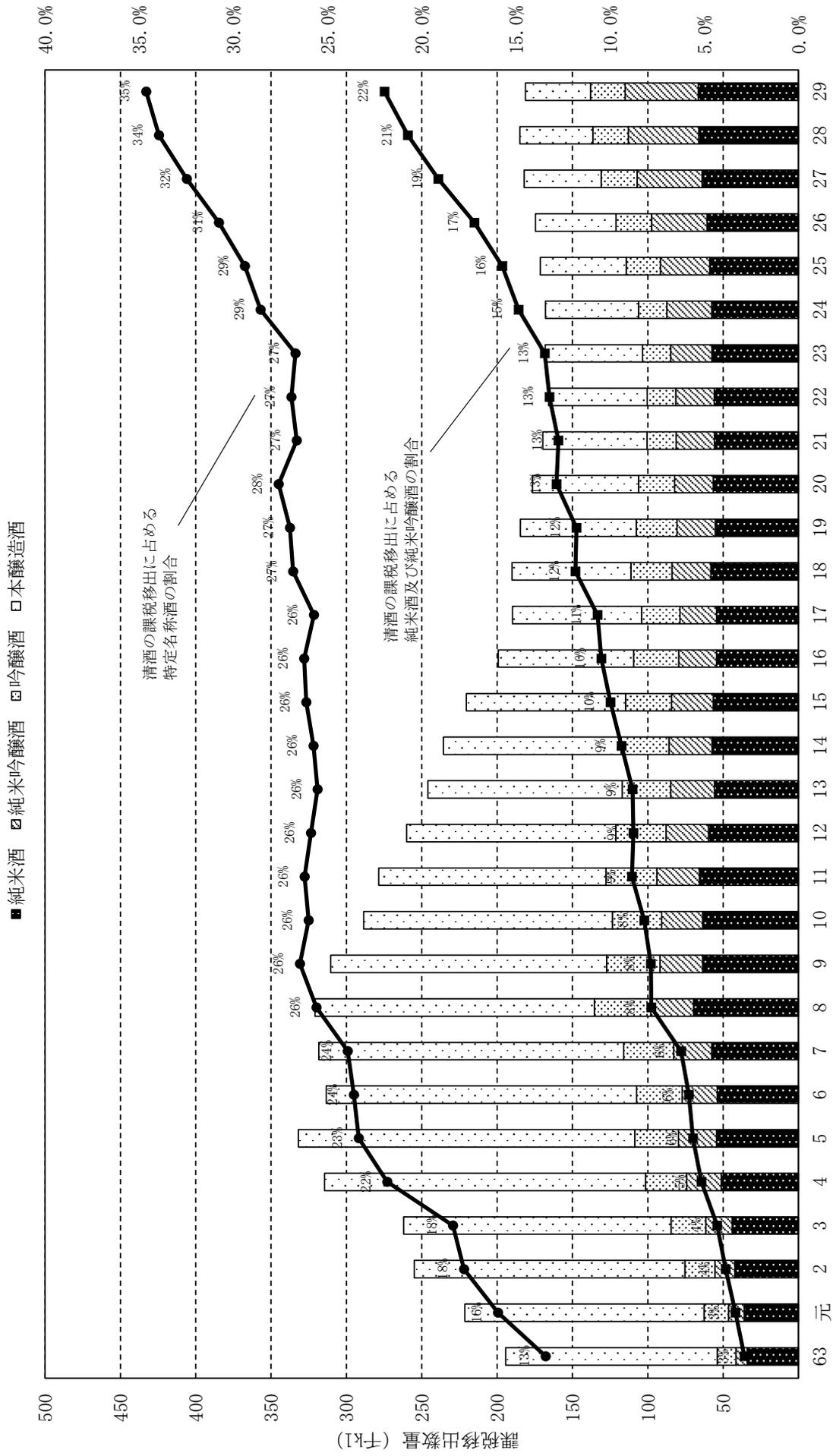
(注) 1. 昭和52年以前の値については、本調査開始以前に本調査とは体系の異なる調査の結果から算出された値であるため、参考値となります。
 2. 清酒製造数量のピークは昭和48年です。

＜参考3＞玄米使用数量の推移



- (注)
1. 昭和52年以前の値については、本調査開始以前に本調査とは体系の異なる調査の結果から算出された値であるため、参考値となります。
 2. 玄米使用数量のピークは昭和48年です。

＜参考4＞特定名称酒の課税移出数量等の推移



＜参考5＞清酒のタイプ別課税移出数量の推移

